

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育方法論 The theory of educational methods		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
細矢智寛	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
幼児の教育方法の基本を理解する。教育の技術(情報機器および教材の活用)について理解する。保育の方法や評価法を理解する。				
授業の目標				
①環境を通しての保育について述べるができるようにする。 ②遊び活動等の指導について述べるができるようにする。 ③保育の評価について要点を述べるができるようにする。 ④情報機器や教材を活用した保育について述べるができるようにする。				
授業の方法				
黒板やプリントを使っての説明を行う。実践事例に触れる。また、教育(保育)に関するテーマについてグループで討論したり、基本的問題を解いて発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。学生が自分で保育の方法を構想し、評価する活動を取り入れる。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 環境のつくり方等について述べ、目的に応じて使い分けることができる。 (2) 遊び活動等の方法を構想し、評価できる。 (3) ICT技術を取り入れた保育の方法を構想できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	保育という方法(児童中心主義保育の流れと保育を構成する要素)			
第3回目	環境を通しての保育(自発的、主体的に環境と関わる)			
第4回目	環境を通しての保育(環境とのかかわりの広がりと考える楽しさへと誘う)			
第5回目	遊び活動:基本			
第6回目	遊び活動:発展			

第7回目	生活活動：基本
第8回目	生活活動：発展（レポートの説明：遊び活動などのテーマによる指導案作成）
第9回目	課題活動：基本
第10回目	課題活動：発展
第11回目	行事活動：基本
第12回目	行事活動：発展
第13回目	プロジェクト活動：基本と発展
第14回目	情報機器とそれにふさわしい教材の活用（レポートの提出日）
第15回目	教育・保育における評価

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	30%	レポートを提出する。評価基準については講義中に述べる。
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	基本的事項について身についたかどうかをテストで確認する。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：豊田和子（編著）、『実践を創造する幼児教育の方法』、みらい、2160円+税。参考書は講義内で指示する。

履修上の留意点・ルール

休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育方法論 The theory of educational methods		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(中学校教諭二種(外国語)、栄養教諭))	英語・栄養の教職課程履修者のみ受講可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
細矢智寛	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
教育方法の基本を理解する。教育の技術(情報機器および教材の活用)について理解する。授業の方法や評価法を理解する。				
授業の目標				
①様々な教育の方法及び技術(情報機器および教材の活用)について区別し、これらを実際に目的に合わせて活用することができるようにする。 ②授業を構成する要素や方法や評価方法を工夫することができるようにする。				
授業の方法				
黒板やプリントを使っての説明を行う。実践事例に触れる。また、教育に関するテーマについて討論したり、基本的問題を解いて発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 教育方法の種類や様々な教育の技術の長所と短所を述べ、使い分けることができる。 (2) 授業を構想し評価し反省できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	教育方法とは何か			
第3回目	教育方法の歴史(西洋と日本)			
第4回目	教育方法の種類(問題解決学習、プログラム学習、ジグソー学習等)			
第5回目	授業を構成する要素			
第6回目	教育評価			

第7回目	情報機器とそれにふさわしい教材の活用
第8回目	反転学習：基礎、レポート課題1の説明（反転学習の動画作成）
第9回目	反転学習：応用
第10回目	思考力を高める教育方法：基礎
第11回目	思考力を高める教育方法：応用、レポート課題2の説明（グラフィックオーガナイザーを活用した指導案作成）
第12回目	学習意欲を高める教育方法（学習ストラテジーを活用した指導法）
第13回目	授業研究
第14回目	授業研究：レポートの提出日
第15回目	まとめ

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	80%	2つのレポートを（40点満点のものを2つ）提出する。評価基準については講義中に述べる。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：自作プリント等を使う。参考書は講義内で指示する。

履修上の留意点・ルール

休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。